



「今年の抱負」

国家公務員共済組合連合会 名城病院長 早川 哲夫

名城病院では、今年も「良い医療を安全確実に提供する」を目標に皆様とともに地域医療に貢献したいと願っています。

一昨年から「パートナーシップを大切にします」を病院のモットーの1つに加え、病院の勤務環境の整備に努めてきました。今年は「良いチーム医療」が実践できたらと思います。今日の日本では、親子、夫婦、兄弟でも断裂どころか、殺人さえもおこる時代です。千里の道も一歩からです。「おはよう」「ありがとう」はだれでも知っている日本語です。これを使える人は少なくなりました。うまく使えば、「とげ抜き」「潤滑油」として大変優れています。この1年、名城病院だけでなく家庭でも使ってみて下さい。お互いの顔つ

きがよくなります。また、「上手じょうずの手」ばかりでなく、「下手へたな手」からも水が漏れることが少なくなります。一層安全な医療が期待できることでしょう。

昨年夏から一階ロビーを中心に、外来にコンシェルジュを4名導入しました。院内で困った時に、適切な案内が得られ、診療を円滑に済ますことができた方もいると思います。今年は地域のかかりつけの先生からの紹介患者さんを中心に診察がスムーズに受けられるように活用したいと、計画しています。

昨年11月から新しいオーダーリングシステムが入り、スタッフ同僚戦苦闘し、皆様方にも御迷惑をかけたことと思います。これを活用して、円滑で便利、しかも安

全な診療ができるよう、一層の工夫をしたいと考えています。

また、マンパワーとシステムを補強して重症な方の集中治療の安全性と質の向上をはかりたいと計画しています。

「笑う門には福来たる」ということわざが昔からあります。いつもにこにこして笑顔のある家には幸運もめぐって来るそうです。名城病院を笑顔の多い病院にして、めぐって来た幸運を皆様方とともに分かち合いたいと、願っております。その第一歩として、あいさつと感謝の言葉を忘れないようにしましょう。そうすれば、皆さんの幸運はすぐそこまで来ていると思います。この一年、元気に過ごしましょう。

名城病院だより「わ」のバックナンバーをご覧になりたい方は

当院ホームページ「当院の取り組み」をクリック！

名城病院ホームページ

<http://www.meijohosp.jp> または、[めいじょうびょういん](#) 検索
にアクセスしてください。

携帯サイトへのアクセスは

<http://www.meijohosp.jp/mp/>

または、右記のQRコードをご利用ください。



ここをクリック



新しいオーダーリングシステム

当院は平成22年11月1日に、オーダーリングシステムを新しいシステムに更新いたしました。幸い移行当初は大幅な診療の遅れをもたらすことはなかったと安堵していますが、それでも、まだまだ、大小の混乱があり、日々解消に努め、年が明けた頃には安定していれば、と期待してきました。

オーダーリングシステムとは、コンピューターネットワーク上でオーダー（医療上の指示）を発行することにより、迅速な情報共有とその利用を可能にするものです。

電子カルテにはしませんでした。それは、医療に付随する情

報入力作業がオーダーリングシステムに比べ膨大になり、医療への注力がそがれることを恐れたからです。

あくまでも医療を進めていくための情報取扱い手段ではありますが、診療の過程での患者さんへのメリット、デメリット等種々の影響があり得ます。

待ち時間が減らせれば、確実に情報が提供できれば、診察室で画像をお見せできて、わかりやすい説明ができればなど、願っていましたが、患者さんからは早々に、予約票が変わって不便だ、紙の無駄遣いだ、などなどご意見をいただいています。

コンピューターシステムとい



うのは円滑な診療を進めるためにはなくてはならない便利さをもつ半面、全く融通の利かないわがままなところもあります。情報提供面や待ち時間の問題などでは、何でもすぐご指摘通りにはいきませんが、患者さんのご意見こそが改善の原動力となります。引き続きご意見をお寄せいただければと願っています。



肝臓疾患について講演する
長野部長

ウイルス性肝炎の最新治療について

みなさんはB型肝炎やC型肝炎という病気を聞いた事がありますか？特にC型肝炎は終戦直後に売血の輸血や予防接種時の注射器の使い回しにより多くの方が感染しました。ウイルスの持続感染により次第に肝硬変という状態になりますが、自覚症状がないので知らない間に進行していることがよくあります。また肝癌の9割以上はこのC型肝炎やB型肝炎による肝硬変から発生しています。ウイルス性肝炎の治療法は全国で統一したガイドラインができており、この数年で大きく変化しているので紹介します。

B型肝炎はこの数年間にエンテカビル、ラミブジン、アデホビルといった新しい内服薬が登場したことにより、殆どの場合で肝炎を鎮静化することができるようになりました。内服薬を半永久的に続ける必要がありますが、B型肝炎の治療はほぼ完成してきています。

一方C型肝炎については5年前からペグインターフェロンとリバビリンの併用療法が行われていますが、まだ十分な治療法になっていません。ペグインターフェロンは週1回注射し、リバビリン

は一日2回服用します。治療期間はウイルスの種類によって違いますが半年から1年半の長期間の治療が必要です。

治療成績はウイルスの種類により大きく異なっており、ウイルスの種類が2型の場合は9割程度治りますが、ウイルスの種類が1型の場合は長期間治療しても残念ながら半分程度しか治りません。

さらに治療効果をあげるため、約1年後にはもう1種類の内服薬を併用する新たな治療法が始まる予定です。

現在、国はウイルス性肝炎や肝癌を撲滅するために肝炎ウイルスの無料健診や医療費助成を行っていますが、C型肝炎の治療には全身倦怠感や貧血症状などの副作用も伴います。もしお近くにウイルス性肝炎に悩んでいる方がみえましたら、是非、当院もしくは肝臓専門医のいる病院にかられることをお勧めします。



新任
ドク
ター
一
紹
介

10月新任

小児科医師

阿部直紀

あべ なおき



この10月に名古屋大学小児科から転任となりました。出身は名古屋市であり、この度伝統ある名城病院に勤務できることを誇りに思います。

現在小児科一般の診療にあたり、日々子供さんから元気をもらっています。少しでも皆様のお役に立てますよう精進して参りますので宜しくお願い致します。

12月新任

麻酔科医師

饗場啓子

あいば けいこ



このたび新しく麻酔科医師として赴任いたしました。

患者様に少しでも安心して手術を受けていただけるよう、安全でより痛みや苦痛の少ない麻酔管理を心がけていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

お
知
ら
せ

当院に一次救命処置の指導者が誕生しました

一次救命処置とは、心臓や呼吸が止まってしまった方に対して行うAED（自動体外式除細動器）を使用した救命処置のことです。迅速な一次救命処置を行うことによって傷病者の生存率が高くなることが証明されています。

11月19日、名城病院で「一次救命処置指導者養成講習会」が開催され、3名の一次救命処置指導者（看護師2名、臨床検査技師1名）が誕生しました。

この度誕生した一次救命処置指導者は、アメリカ心臓協会（以下AHA）の教育方法に基づいて指導を行う、AHAの認定を受けた一次救命処置指導者です。

この指導者から訓練用人形を使用した実技訓練を受けられた方は、訓練終了時には一次救命処置に必要な知識と技術を習得できます。

一次救命処置を習得するためには、机上の学習だけでは不十分です。また、頭では理解して



新たに誕生した3名の指導者

いても実際に救命処置が必要な場面に遭遇した時に必要とされるのは実践力です。実践力を身に付けるには、先に述べたような実技訓練が最も有用とされています。

一次救命処置指導者の大きな役割は、1人でも多く「一次救命処置が出来る人」を社会へ輩出することです。

今後名城病院では、誕生した指導者による継続した職員教育だけにとどまらず、地域の皆様へも一次救急処置の訓練の場を提供し、更なる地域医療の質と安全の向上に貢献していきたいと考えています。



一次救命処置インストラクターの三浦看護師（中央）と講習風景

ICU



人工呼吸器関連肺炎の予防…【共済医学会の発表より】

毎年、全国の共済組合連合会病院による共済医学会が開催されています。今年度は第59回を迎え9月30日～10月1日まで、北海道で開催されました。そして、当院のICUでは、“人工呼吸器関連肺炎（VAP）”の発生率減少を発表しましたので、報告します。

ICUに入室される患者様には、様々な原因により自分で呼吸をすることが困難となり呼吸状態が悪化し、生命に危険が及ぶことがあります。このような状態の患者様には、口もしくは鼻から、気管へ管を挿入し人工呼吸器を装着します。人工呼吸器装着により、呼吸状態は安定します。しかし、人工呼吸器という人工的な器械の使用や患者様の苦痛を除くための鎮静薬の使用、さらに体動の制限などがあり、合併症を起こす危険性があります。その合併症の

1つに、“人工呼吸器関連肺炎（VAP）”と呼ばれるものがあります。この人工呼吸器関連肺炎を予防するには、適切な鎮静薬の使用やベッドの頭部を30～45度挙上させ体の向きを変えること、さらに人工呼吸器からの離脱が可能かを評価し、早期に管を抜くことが重要とされています。これらのことを患者様や御家族の承諾を得て実施させて頂き効果があることが示唆され、発表しました。今後も患者様の苦痛を最小限にしながらも、人工呼吸器関連肺炎が予防できるような看護を継続し実施していきたいと思えます。



30度挙上時のベット位置



(赤定規が30度、黄定規が45度)

ICU看護師 藤田由花子

編集集



あけましておめでとうございます。今年の干支はウサギです。私の祖母は卯年生まれで95歳になりますが、これまで大きな病ひとつせず元気に過ごしてきました。一昨年から地域のデイサービスを利用して、家族以外の人と接する機会が増えたためか、今まで以上に若返ったように感じます。家族や周りのお世話をしてくれる人たちに「ありがとさん、ありがとさん」と、笑顔や感謝の言葉を忘れません。そんな大好きな祖母がこれからも元気でいてくれることを願っています。今年も皆様のご健康とご多幸をお祈りするとともに、より多くの方々に読んでいただける広報誌作りをまいります。

岡島

後記

名城病院診療等のご案内

ホームページはこちら <http://www.meijohosp.jp>

診療科目

内科・循環器科・小児科（小児循環器）
外科・整形外科・脳神経外科・心血管外科
皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科
歯科口腔外科・神経内科

診察受付時間

【新患受付】 午前 8:30～11:30まで
【再来受付】 午前 8:00～11:30まで

面会時間

【一般】 午後 0:30～8:00まで
【新生児】 午後 0:30～8:00まで（授乳時間を除く）
【ICU】 午後 0:30～4:30まで（家族のみ）
午後 5:00～8:00まで

*生花の病室への持込は、感染予防のためご遠慮願います。

診療案内

【休診日】 土曜日・日曜日・祝日
年末年始（12月29日～1月3日）
創立記念日（11月6日）

所在地

〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1
TEL (052) 201-5311 FAX (052) 201-5318

お問合せは、

- ・ 午後の診療等、詳しくは、医事課まで（内線 2132）
- ・ 医療福祉に関しては、医療福祉相談室まで（内線 5105）

医療機関の方へ

- ・ 病診連携に関しては、病診連携室まで（内線 2151）



名城病院は、病院機能評価の認定を受け、よりよい医療を提供できるよう努力しています。